

歴史都市・京都の創生を図る

世界的な観光都市・京都には、既に二二〇〇年を超える歴史と文化というブランドが存在する。だが、「近代化」という名の都市破壊により、京都本来が持つ魅力が失われつつある。そうした現状に危機感を覚え、日本だけでなく世界の貴重な財産である京都が本来持っているパワーの再生を図ろうという具体的な動きが起きている。それが、歴史都市・京都の創生を」といって、京都市が市民や企業と一体となって進めている運動である。

その事務局となっている白須正京都市総合企画局京都創生推進室長は、『京都創生』とは、歴史と文化が息づくまち・京都が、本来持っている山紫水明の美しい自然や落ち着いた都市景観、受け継がれてきた奥深い文化などを、日本の歴史文化の象徴として守り育てることで、京都の魅力にさらに磨きをかけ、観光を通じて日本中、さらには世界に発信する試みです」と説明する。

具体的には、次の三つを柱とした取り組みが

● まちづくりと地域ブランドの現場から ●

伝統と文化をさらに深化させた新たなブランドづくりを図る

京都市

・ナビゲーター

京都市総合企画局京都創生推進室



147万人の人口を有する大都市とは思えないほど美しい風景が広がる鴨川河畔



昔と今の京都が混在する高瀬川沿いの木屋町通り界隈



京都の台所として有名な「錦市場」。今や観光スポットとしても賑わっている



京都の市街地を代表する京町家が並ぶ景観は、京都の街の大事なアイデンティティとして、積極的に守られようとしている



京都を代表とする伝統産業の一つ西陣織を体験できる「織成館(おりなすかん)」。後継者育成の拠点にもなっている

京都市総合企画局京都創生推進室

【事務局】

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る
上本能寺前町488番地

TEL 075(222)3375 FAX 075(212)2902

URL <http://www.city.kyoto.jp/sogo/seisaku/>



新しい文化の創造拠点として設けられた「京都国際マンガミュージアム」は、元小学校であった建物を再利用して作られている



京都はまた学生の街でもある。市内に大学は25校、短大は13校が存在し、学生の流入も活気を生み出す原動力のひとつとなっている

進められている。

一つ目は、京都らしく美しい「景観」の保全、再生、創造。市街地全域における建築物の高さの最高限度の引き下げをはじめ、周囲の景観に合わせたデザイン基準の策定、屋外広告物の規制の強化などが検討されている。

二つ目は、永年の歴史に育まれてきた「文化」の継承と創造。白須室長は、「京都は歴史的な技法を継承していくだけでなく、常に最先端の技術の導入も図ってきたまちです。そうした伝統を活かして蓄積されてきた京都の文化の継承と創造に取り組むことで、独自の個性ある世界的な文化芸術都市を創生します」と語る。

そして三つ目は、「こうした京都の都市資源を活かした魅力の創造と発信による「観光」の振興。京都の観光は現在、非常に順調ですが、それに甘んじることなく、観光立国・日本の牽引役として歴史都市・京都の創生を図り、美しい日本の再生を目指します」(白須室長)。そのため、京町家の再生と活用を取り組みに対する支援を国に要望・提案するなど、京都だけに止まらず、国全体を挙げての支援の実現を図っている。

今の時代、レトロなものに心のやすらぎを求める傾向があるが、それは失われつつある日本のアイデンティティを求めているからだとも考えられる。そういった意味で、まさに「京都がもっている魅力が再認識される時代がやってきた」と言っているのではないだろうか。

(文責・CEL編集室)

CEL